市長日記

帽振れ！

7月24日午前、海上自衛隊立神桟橋において新テロ特措法に基づく外国艦船への給油活動のため出航する海上自衛隊の補給艦「はまな」と護衛艦「ゆうだち」の見送り式が、任地に向かう自衛隊員の家族、防衛省、海上自衛隊幹部、一般市民など関係者約800人の参加の下、執り行われました。

激励のあいさつや指揮官の決意の言葉が述べられた後、いよいよ出航。艦が静かに桟橋を離れると同時に「帽振れ」の号令がこだまし、艦上に整列した隊員たちが一斉に帽子を振り、桟橋の家族や見送りの人も手やハンカチ、帽子を振って応える。何とも言えない感動的な場面でした。

艦と桟橋の距離が遠ざかるにつれ、桟橋上の家族の人たちは桟橋の先端の方に移動し、「行ってらっしゃい」「無事でね」「頑張って」「体に気をつけて」などの声がだんだん大きくなり、艦の影が小さくなるとともに、赤ちゃんを抱いてすすり泣く人、目を真っ赤に腫らした人たちがいつまでも艦影を追っていました。

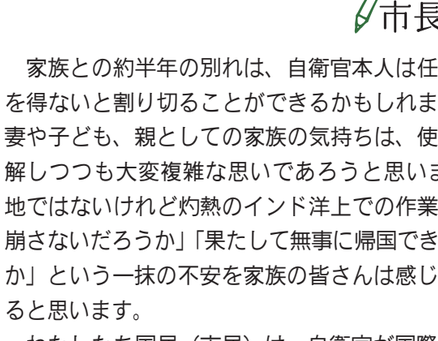
家族との約半年の別れは、自衛官本人は任務でやむを得ないと割り切ることができるかもしれませんが、妻や子ども、親としての家族の気持ちは、使命とは理解しつつも大変複雑な思いであろうと思います。「戦地ではないけれど灼熱のインド洋上での作業で体調を崩さないだろうか」「果たして無事に帰国できるだろうか」という一抹の不安を家族の皆さんは感じておられると思います。

わたしたち国民（市民）は、自衛官が国際貢献という尊い使命感を持って任務に当たられている現実を本当に理解しているのでしょうか。約半年間も命をかけて任務に従事し、家族と離れ離れになりながら、国のため、世界平和のために頑張っておられる人々とその家族がいらっしゃることを心のどこかに留めておきたいものです。わたしも自らに「帽振れ」の号令をかけ、皆さんの無事の帰国を祈りたいと思います。

佐世保市長　朝長　則男

情報クリップ

7月8日（火）、本市は韓国・坡州（パジュ）市との国際親善都市提携を目指して意向確認締結式を行いました。今後は産業、文化、教育などさまざまな分野で交流を進め、人の往来を増やし、人と人、心と心のつながりを強め友好を深めていきます。国際親善都市提携の正式調印は11月に行う予定です。



ごみ焼却灰を溶かして減量化する佐世保市灰溶融施設が市西部クリーンセンター敷地内に完成し、7月30日（水）、落成式典が開催されました。この施設は一日で最大29トンの焼却灰を処理できる溶融炉を2基備え、焼却灰を従来の5分の1に減量することができます。溶かす過程で生成される溶融スラグ（かす）や金属は土木資材などに再利用できます。施設は平成17年6月に着工。防衛施設周辺民生安定施設整備事業として国から約18億円の補助を受け、合併特例債など総事業費約39億8千万円で建設されました。

7月31日（木）、「させぼ子ども市議会」（佐世保青年会議所主催）が市役所の本会議場で開催され、市内の9小学校の児童38人が参加しました。児童たちは環境問題や水産業振興策などを学校ごとに質問し、部局長などがその一つ一つに答弁しました。児童たちの熱心な質問に市長は「皆さんよく勉強していてびっくりしました。今日の内容を学校でも勉強してほしい」と議会の最後に話しました。

SASEBO 編集後記

ことしの本紙1、5、9月号とシリーズで特集した「市民協働」。特集のきっかけは私自身が参加した協働の重要性を学ぶ職員研修での出来事でした。主に若手職員が参加していましたが、私も含め協働への理解・関心は低めで、担当する業務に市民が入る必要はないと断言した職員もいました。その時、「市民の声を聴かずにできる仕事って市役所にあるの？」と質問した講師の言葉が忘れられません。「市民協働」が市民にも職員にも広く深く浸透することを願います（H）

元気な朝ごはんレシピ

野菜たっぷりスープごはん

考えていただいた人　平浪理子（ひらなみ・りこ）さん
平成19年度ヘルシークッキングコンテスト
学生部門応募レシピ

材料・4人分

ご飯	230g
青・赤・黄ピーマン	各1個（各100ｇ）
キャベツ	2枚（70g）
えのき	1／2束
にんじん	1／2本（80g）
ベーコン	2枚
卵	2個
水	480cc
だしの素	小さじ1
薄口しょう油	大さじ2

作り方

❶野菜とえのきは食べやすい大きさに切る。ベーコンは5㎜幅に切る。
❷鍋に水、だしの素、薄口しょう油を入れ、沸騰したらご飯と❶を入れる。
❸最後に溶き卵を入れて出来上がり。

1人分の栄養価
熱量207kcal、たんぱく質2.6g、脂質6.0g、塩分2.2g
ワンポイント
冷蔵庫の残り野菜で簡単にできますよ。

歴史散歩

第518回

二つの瀬替池（潜木町）

江戸時代は、全国の藩が競って新田開発を進めた時代です。平戸藩に属していた佐世保でも、河口や海岸、山間地で大小さまざまな干拓や開拓が行われました。佐賀県境の八天岳（七〇七㍍）のふもとから、上柚木町にかけてのゆるやかな田園地帯を安定して潤す北瀬替、南瀬替の二つの溜め池も、そうした開拓地のかんがい用として築堤されました。

二つの池の中ほどに八天宮が建っています。明治維新後、潜木神社と改称されましたが祭神は佐賀・塩田町に本宮がある雨ごい祈願の八天狗神で、分社は八天岳の山頂にあり潜木の宮は拝殿です。天保十五（一八四四）年に建てられた鳥居があり、瀬替池の完成もこのころと思われます。

鳥居の柱には、上柚木にある西光寺の法印光榮代、郡代稲津喜十郎、代官寺田長右衛門、御境目付山中助次右衛門、井上建次兵衛、山中忠蔵、庄屋井出周といった相浦谷一帯の役人名が並び、瀬替池の築堤に注がれた藩の期待感が読み取れます。

戦国時代、宗家松浦家の養子縁組にからんで起きた内紛の相当原合戦は元亀二（一五七一）年。このころ、宗家松浦家の配下だった人の一部がこの上柚木から相当原に住みついたと言われています。また、平成二年にお会いした瀬替池そばに住む故福留秀雄氏（当時六十八歳）は、先祖が平戸藩槍奉行で、槍の柄にするヒノキを植林するためこの地に入植してきたと話されました。

瀬替の名は、狭が江、つまり八天岳から流れ出す少量の水を溜めた池だったのでしょう。この池を立派に改修し、数百㌧のかんがい用水を確保できたので、潜木、高花町の広大な田畑で安定した米などの作物を収穫できるようになったのです。

筒井 隆義